

児童生徒が主体的に学ぼうとする学習指導の研究

～ 個別最適な学びと協働的な学びの実現を目指した授業づくり ～

十島村立中之島小・中学校

1 研究のねらい

ICT 機器の効果的な活用や「個別最適な学び」、「協働的な学び」の一体的な学習を充実させるための工夫等を通して、主体的に学習に取り組む児童生徒を育成する。その際、主体的な姿について、ルーブリックを用いて具体的に設定することで、児童生徒と共通理解を図る。

2 研究の概要

児童生徒が主体的に学ぶために、ICT 機器の効果的な活用や、個に応じた「個別最適な学び」、他者との協働を意識した「協働的な学び」を充実させるための在り方について研究した。主体的な姿について、ルーブリックを用いて、具体的に児童生徒と共通理解し、振り返らせながら学習意欲を高められるよう工夫した。

3 研究の内容

(1) 「個別最適な学びと協働的な学び」のある授業づくり

以下のように学習過程における目指す児童生徒の姿をまとめた。【一部】

学習過程	視点 個…個別最適な学び 協…協働的な学び
問いをもつ・見通す 【課題をもって学習にのぞむ児童生徒】	個…児童生徒自ら、問いをもつ。 個…自分に適した問題のレベル、量、進度を選択する。 個…自分に合った学習方法を選択する。
自分の考えをもつ 深め、広げる 【自分で考え問題を解こうとする児童生徒】	個…問いに対する自分の考えを、タブレット端末や思考ツール等を用いて整理したり、複数のアイデアや記録を保存したりする。 協…自分の考えが他者によりよく説明できるように、根拠や理由をもとに端的に表現する。 協…他者が説明しやすいような聞き方を心掛け、自分の考えと比較しながら、共通点や相違点に気付く。 協…他者との意見交換を通して、自分の考えを深めたり、広げたりする。

(2) 「振り返りの時間」の工夫

以下のルーブリックを用いて、主体性を数値化し、変容を見たり、次時以降の授業の方向性を考えたりできるようにした。【一部】

目指す姿	学び	内容	レベル 1	レベル 2	レベル 3	レベル 4
課題意識をもち学習にのぞむ児童生徒。 (導入)	個別最適な学び	やるべき課題や問題に向き合い、ほかのことに意識を向けてしまうことなく集中して取り組み、失敗を恐れず挑戦すること。	やるべき課題や問題について理解することができなかった。	やるべき課題や問題について理解することができた。	やるべき課題や問題について向き合い、解決に向けて集中していた。	やるべき課題や問題について向き合い、解決に向けて集中力を切らすことなく、失敗を恐れず発表等を行うことができた。


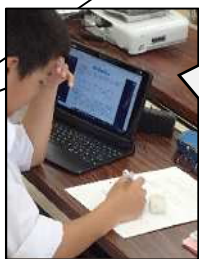
4 研究の実際

中学 1 年 2 章 「文字式」 文字式の利用

(1) 目標 (本時 14 / 16)

- ・ 数量の関係や法則などを、式を用いて表したり、読み取ったりできる。(知識・技能)
- ・ 問題解決場面で、自らよりよい方法を選択し、多面的に考えようとしている。(思考・判断・表現)

(2) 本時の実際

過程	主な学習活動	
問いをもつ・見通す	1 学習課題を把握する。 正方形の数を a としたときの、ストローの本数を、 a を用いて表しなさい。	めあてを自分事にさせる工夫（個） 今までの学習を思い出させながら、めあてを生徒と一緒に立てる。
	2 めあてを立てる。 ストローの本数を、文字を使って表すにはどうすればよいか。	自分に合った学習方法を選択させる（個） タブレット上、紙面上で考えるよさを分かった上で選択させる。
自分の考えをもつ・広げ深める	3 自分が選択した方法で、学習課題に取り組み、互いに説明を行う。 ・ 自分の考えをワークシートに書く。 ・ タブレットを使って考える。	意見を比較させ、共通点・相違点に気付かせる工夫（協） プロジェクターを用いて、生徒の考えを白板に並べて写し、比較させる。
	① $1 + 3a$ ② $4 + 4(a - 1)$	 <p>私は最初のストロー1本に、3本でできた形が a 個できると考えました。○さんは最初に4本としているところが私と違います。</p>
	4 3で説明した以外のストローの本数の表し方について考える。 ③ $4 + 3(a - 1)$ 正方形 + $3 \times a - 1$ 個	
振り返る	5 どんな方法でも、計算すると $1 + 3a$ になることに気付く。	生徒が自ら問題の難易度を選んで解答するための工夫（個） レベル分けした問題を提示し、どのレベルの問題からでも解答できるようにする。
	6 学習のまとめを行う。 ストローの本数は、文字を使って数種類表すことができるが、最終的に簡潔に表現することができる。	 <p>最初の1本にそれぞれの形が a 個という考え方は、どんな形式でも当てはまることがわかった。これを応用すれば立方体が並んだものでも式が立てられるから難しい立方体の問題から挑戦しよう。</p>
	7 練習問題を選択し、各自取り組む。 正三角形、立方体、縦に2個並べた正方形等 8 ルーブリック評価を用いて振り返る。	

5 研究のまとめ

(1) 成果

「個人で考え、他者と比較して考える」場面が増えたことに加え、ICT 機器の効果的な活用により、ルーブリックの目指す姿の一つである「難しい問題に対して、自分の考えを広げたり、深めたりする姿」の高まりを児童生徒、教師が共に実感できた。

(2) 課題

学校では、主体性の高まりを感じることができたが、家庭学習の充実にはまだつながれていないとは言えない。また、児童生徒に選択させる際、学習方法だけでなく、思考方法の選択にまでつなげられるように工夫することが望ましい。

6 今後の取組

今後も授業中における、主体性の高まりを実感させ、家庭学習にまでつなげられるようにしたい。また授業だけでなく、学校活動全体を通して、困難な状況を乗り越えさせたり、自信を付けさせたりすることで、粘り強く努力する児童生徒の育成を図りたい。